



# 前橋育英高校報

題字 中村有三 学園長

建学の精神 ～正直・純潔・無私・愛～



■写真協力=長濱耕樹(ゲキサカ)



■写真協力=長濱耕樹(ゲキサカ)



## 見えない立役者

男子サッカー部主将 徳永 涼



四国インターハイで2回目の全国制覇をすることができました。前橋育英は過去に全国準決勝、決勝とあと一步の所で負けることが多くありました。監督からも、「簡単に優勝と口にするな」と言われ、全国制覇の難しさを感じていました。しかし、それと同時に僕たちの代で必ず取ってやるという気持ちも強くなりました。今回なぜ優勝することができたのか。それは、ベンチメンバーの見えない輝きがあったからです。ゲーム中の声かけ、練習やアップの雰囲気作り、プレーの気迫、色々な面から支え、刺激を与えてくれました。一つの目標に対して全員が同じ方向を向くことは簡単なことではないです。この最高の仲間と、夏冬二冠を取ります。

男子サッカー部監督 山田 耕介



令和4年度インターハイサッカー競技は、徳島県で行われました。夏の大会は、暑さとの闘いになります。この中で、日本一になる為には、7日間で、6回の試合で勝利しなくてはならない世界で一番過酷な大会です。大切なのは、いかにしてコンディションを整えて試合に臨めるかです。食事、休養(睡眠)、コンディション維持が、大事になってきます。スタッフの仕事は、メンタル面からケガの治療そしてコロナ対策などサッカー以外の部分が重要になってきます。決められたスタッフで分析から選手の疲労回復の為の治療、試合前後の栄養補給など、完璧ではありませんが、チームワークは良かったと思います。そして3回目の全国優勝を果たすことができました。皆様応援本当にありがとうございました。

## 関東個人・とちぎ国体を経て

弓道部 加藤 ほの美

今年のインターハイは9位タイという入賞一步手前の悔しい結果で終わりました。あの瞬間自分が何を考えて引いていたのか、もっとこうすれば良かったなどの反省や悔しさを胸に臨んだ関東個人で優勝、とちぎ国体では近的・遠的で準優勝することができました。競技を始めた当初は、全国大会出場が目標でしたが、国体で入賞するまでに成長できたので、最後まで諦めないで本当に良かったと思いました。大学でも競技を続けるので、活躍できるように頑張ります。

弓道部顧問 真下 智紀



9月10日～12日で行われたとちぎ国体で、本校弓道部加藤ほの美が群馬県チームの一員として参加し、近的競技・遠的競技で準優勝しました。本国体一週間前に行われた関東高校弓道選抜個人大会で育英初となる優勝を果たし、その勢いで国体に挑めたことがこの要因だと思います。本人がここまで成長できたのは、ご家族の全面的な協力をはじめ、本校弓道部スタッフの阿部先生・五十嵐先生、群馬県高体連弓道専門部の先生方、多くの仲間や後輩など本人に携わっていたすべての方のおかげだと思います。ありがとうございました。

## CONTENTS



特集 1～3面

- ・挨拶
- ・進路指導部より
- ・スポーツ実績



保護者会だより 4・5面

- ・我が子を語る
- ・吹奏楽部定期演奏会



同窓会だより 6面

- ・同窓会長挨拶
- ・私の近況報告
- ・親子二代同窓生
- ・2023年度同窓生の集い



後援会だより 7面

- ・後援会長挨拶
- ・定期総会
- ・援助金贈呈式
- ・優秀前橋育英生
- ・コラム育英II



トピックス 8面

- ・全国大会出場決定
- ・文化部活動報告

理事長挨拶

ご挨拶



中村 義寛

前橋育英高等学校は1963年、昭和38年に開校し今年で創立60年目を迎えました。

本校は建学の精神として「正直・純潔・無私・愛」を掲げ、常に国際的視野に立ち、社会の福祉と世界の平和に寄与できる有為な人材の育成を図り、生徒の能力・適性・進路に応じた目的別教育を実践してきました。

開校当初は普通科の男子校として始まり、その後、男女共学となり、工

副校長挨拶

ご挨拶



神山 義幸

芸術科、保育科、体育科、英語科を設置し変遷を重ね、今年度からは保育科を普通科V類保育コース(男女共学)に改組し、新たなスタートを切りました。開校から現在まで、この間2万7千名に及ぶ卒業生を輩出し、それぞれの方が多方面で活躍されています。群馬育英学園としては2018年4月に育英大学を開学、前橋育英高校との連携強化を目的に教育学部に児童教育専攻・スポーツ教育専攻を設けました。また、育英短期大学保育学科・現代コミュニケーション学科との連携もより一層強化し、学園全体で教育効果を高めてまいります。

今後、引き続き少子化の中、10年、20年後を見据え、教育内容・施設・設備の充実や改革を実行し、より一層の文武両道を実現し、全国に誇れる前橋育英高校で在り続けます。

校長挨拶

ご挨拶



金子 雅人

日頃より本校教育活動にご理解とご協力をいただきありがとうございます。

さて、新型コロナウイルス感染者数の拡大は、取まるところか昨年同時期と比べ増加しております。しかし、ワクチンの普及やwithコロナにより、日常の

行動制限は緩和されつつあります。本校でも感染対策を継続し、学校運営をしてまいります。

ところで、一学期終業式の挨拶で、夏季休業中に校舎内の増改築工事実施について話をしました。まずは、各教室内に電子黒板と私物収納棚を設置し、トイレの大幅な増改築と南校舎の中庭を整備して東屋を設置しました。さらに、学食の厨房を修理・増設し、学食の提供を更に充実させることにしました。

本校としては、今後も学習・生活環境の充実を進めたいと考えます。そのためにも生徒や保護者の皆様の要望を聞きつつ、実現を図ればと考えます。

教頭挨拶

ご挨拶



上原 敏広

副校長を拝命して三年目になりました。この三年間の学校運営は、本当にコロナに翻弄された三年間でした。そして、コロナ禍だからこそ生じる課題に対応する中で、自分の考えの至らなさや未熟さを痛感し、学校運営の難しさをあらためて感じた三年間でもありました。

日常生活がコロナ前と同じになるのはもう少し先になるかもしれませんが、まだまだ未熟ではありますが、それでも今までの反省をいかして、生徒にとってより良い学習環境の場を提供すること、また、教職員にとってより良い職場環境を提供すること、これらを常に考え、金子校長先生のもとで学校運営にあたりたいと考えています。目の前の課題を一生懸命取り組み、今後とも職責を果たしていきたいと思っておりますので、関係者の皆様のご指導ご鞭撻をよろしくお願い申し上げます。

事務長挨拶

新任挨拶



冨澤 昌久

四月から事務長としてお世話になっております冨澤昌久と申します。本県の県立高校・特別支援学校・大学事務局や県教育委員会ですら十年余りにわたって十四所前橋高校の事務長を最後に定年退職しました。吾妻の八ッ場ダムの麓から五十キロの道のりを通勤して

さて、本校は今年で創立六十年目を迎えました。サッカーや硬式野球に代表されるスポーツ名門校に加えて、大学等への進学にも大いに力を注いでいる高校です。「事務室は学校の顔である。」とよく言われますが、これからも、前橋育英高校が地域から信頼され、ますます愛される学校となるよう、僅かばかりの経験値を活かしつつ、誠心誠意努めさせていきたいと思います。前事務長にも増して、どうぞよろしく申し上げます。

夏季休業期中の施設整備について(報告)

夏季休業期間を利用して、校内の教育環境を改善するため、施設を整備しました。女子トイレの増設・改修、普通教室へのロッカー及び電子黒板の設置、また、生徒の憩いの場スペースを創設するなど、教育環境を整備しました。年度末には北校舎下足用ロッカーの更新を予定しています。今後も生徒のニーズに即した教育環境の充実を図っていききたいと思います。



教室ロッカー



憩いの場



女子トイレ増設・改修



電子黒板

地域懇談会に参加して

朝日が丘町自治会長

中澤健治



去る6月21日(火)コロナ禍の影響で三年ぶりの地域懇談会が開催されました。前橋育英高校近隣の上新田町、光が丘町、大利根町の自治会役員の方々と一緒に学校を訪問させていただきました。学校の近況報告や各自治会からの要望等、活発な意見交換が行われました。毎回のよう意見が出るのが「自転車通学での交通の

ルールを守りましょう」ということです。高校時代という密な青春を事故なく楽しく過ごしていただきたいという老舗心からのご理解ください。文武両道に優れ、県内でも有数の生徒数を誇る高校が地元にあるということは地域住民にとっても最大の誇りです。私は26年間海外で生活をしていましたが、甲子園で優勝した時は、全国各地から来ている日本人に自慢して歩いたものです。最後になりますますが、近隣地域の清掃をいつもしてくれて本当にありがとうございます。これからも前橋育英高校と一緒に、地域を盛り上げたいと思います。

進路指導部より

「探究活動」本格始動

進路指導部主任 西岡良幸

本年度より正式にスタートした科目の一つに『総合的な探究の時間』が有ります。本校では月曜日の七限目に設定し実施しています。これに並行して土曜日の午後を中心に探究特別プログラムを始動しています。

学力の3要素の中で、大学や企業で求められている『主体性・多様性・協調性』をブラッシュアップするためのプログラムです。現在は、育英短大の学生たちと共働で取り組むeスポーツ大会の企画運営と、大塚製薬・クスリのマルエ様ご協力のもと展開しているマーケティング実践の二つに取り組んでいます。活動内容や活動している生徒の様子は随時本

校ホームページに掲載しております。ぜひご覧ください。来月からは育英メディアカル専門学校との連携講座もスタートする予定です。体のメンテナンスだけでなく、美容や健康にも関わる講座が準備されます。様々な探究活動を通して、皆さんの大いなる可能性を広げるサポートを継続していきます。

スポーツ実績

2022 Summer~Autumn

男子サッカー部

四国インターハイ2022

優勝 (12大会ぶり2回目)

7月24日(日)1回戦

対 長崎総大附(長崎) 1-0

7月25日(月)2回戦

対 磐田東(静岡) 不戦勝

7月26日(火)3回戦

対 聖和学園(宮城) 2-0

7月28日(木)準々決勝

対 矢板中央(栃木) 2-1

7月29日(金)準決勝

対 米子北(鳥取) 0-0 PK 4-3

7月30日(土)決勝

対 帝京高校(東京) 1-0

第101回全国高校サッカー選手権大会群馬県大会 優勝

女子サッカー部

第31回群馬県高等学校

女子サッカー選手権大会

優勝

第31回関東高等学校

女子サッカー選手権 兼

全日本選手権関東予選 5位

男子バスケットボール部

2022ウインターカップ

県予選会 優勝

陸上競技部

四国インターハイ2022

男子

【200m】樋口怜大(2年) 出場

【5000m】今井悠貴(2年) 出場

【400mH】松丸健太郎(3年) 出場

【4×400mR】樋口・松丸・櫻井・塚越 出場

女子

【棒高跳び】柳川美空(2年) 5位

【4×400mR】須賀結・柿沼・須田・須賀愛 出場

【400m】須賀愛彩(3年) 出場

いちご一会とちぎ国体2022

少年男子A棒高跳び

原口顕次朗(2年) 6位

JOCジュニアオリンピックカップ

第16回U18陸上競技大会

女子棒高跳 柳川美空(2年) 1位

第26回関東高等学校選抜新人

陸上競技選手権大会

男子棒高跳 原口顕次朗(2年) 1位

硬式野球部

第104回全国高校野球

選手権大会 群馬大会ベスト8

第75回秋季関東地区

高等学校野球大会

群馬県予選ベスト8

女子柔道部

四国インターハイ2022 団体出場

【52kg級】関口凜(3年) 出場

【63kg級】中村廣海(3年) 出場

【70kg級】栗原あづ(1年) 出場

【78kg級】関口葉(1年) 出場

女子ソフトボール部

県新人ソフトボール大会 兼

第41回全国選抜県予選会 兼

第53回東日本大会県予選会 3位

弓道部

四国インターハイ2022

加藤ほの美(3年) 9位

第41回関東高等学校

弓道個人選手権選抜大会

加藤ほの美(3年) 優勝

いちご一会とちぎ国体2022

少年女子群馬県選抜

加藤ほの美(3年) 9位

遠的競技・近的競技 W優勝

令和4年度 県新人大会

女子団体優勝 全国選抜大会出場

水泳部

第57回県高校総体 競泳

学校対抗 男子 総合1位

女子 総合6位

四国インターハイ2022

武快飛(3年)

【200mバタフライ決勝】5位

【100mバタフライ決勝】5位

女子テニス部

四国インターハイ2022 団体出場

【シングルス】松本多恵(3年) 出場

ボクシング部

四国インターハイ2022

【ミドル級】堀越健太(3年) 出場

全日本女子ジュニア選手権大会

【ライト級】白井路璃亜(3年) 準優勝

【ピン級】岡部月香(1年) 3位

【フライ級】小川萌(3年) ベスト8

ウエイトリフティング部

四国インターハイ2022

青木優真(2年)

【102kg超級トータル】217kg 14位

第60回県高校選手権大会

青木優真(2年) 3位

学校対抗 3位

ダンス部

USA Japan チアリーディング&ダンス

学生選手権大会 2022 EAST 高校編成

Song/Pom部門 Advance Medium

ベストインプレッション賞

JCDA全日本チアダンス選手権大会

関東予選大会 Pom部門Medium編成

8位入賞(決勝大会進出)

# 保護者会だより

## 犬志



保護者会長 吉田 哲也

向寒の候、会員の皆様におかれましては、益々ご健勝のこととお慶び申し上げます。また日頃より、保護者会活動に対し、多大なるご理解とご協力をいただきありがとうございます。心より御礼を申し上げます。

今年度も残すところ数か月となり、新たな年度に向けての準備を進める時期になってまいりました。私が保護者会の役員となり、これまでの約二年半を振り返ると、新型コロナウイルス感染症拡大防止の影響で様々な行事や活動への制限もあり、私が思っていたような保護者会活動ができなかったことは残念で、少し寂しい思いもあります。

ですが、そんな中でも生徒達は、日々前向きに一生懸命頑張ってきた成果を発揮し、部活動などでは素晴らしい結

果を残してくれたことが、私たち保護者にとつてはとても励みになっていると感じております。三年生に至つては、高校生活もわずかととなり、新たな進路に向けて大切な時期になっています。そして、一・二年生へは本校の伝統や文化を先輩方から継承され、今後の更なる活躍を期待しております。

新たな生活様式の中で、社会も学校も色々なものが変化し、その変化に対応していかねばならない現状は続いておりますが、社会生活の一部は少しずつ緩和され、元の生活に戻りつつあるように感じております。これからの地域を担っていく生徒達には、前橋育英高校の生徒として自覚し、明確な目標や大志を抱き、何事にも挑戦し続けて欲しいと願っております。保護者会といたしましても、校長先生をはじめとする教職員の方々と生徒達のために、今後より良い保護者会活動を行えるよう役員一丸となり、邁進していく所存であります。どうぞ、引き続き保護者会活動へのご支援とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

## 弓道部保護者(生徒名) 素敵な三年間

安達 真由美 (真実)

高校で新たなスポーツにチャレンジしようと門をたたいた弓道部。経験の有無にかかわらず温かく迎えていただき、よき友、よき師との出会いがあり、充実した日々を過ごすことができました。振り返れば、長いようであつという間の三年間。一年時に弓を引くのが楽しいと、話していたことが思い出されます。

大会等は、コロナ禍の影響で無観客となるなど、近くで応援できませんでしたが、最後のインターハイ予選では、練習の成果を発揮する姿を観戦でき、とてもうれしく思っております。また、個人ではインターハイ・国体に出場する仲間もおり、部活動を通してかけがえのない友を得られ、弓道部にお世話になったことを深く感謝しております。ここまで



ご指導してくださった真下先生、五十嵐先生、阿部先生、一緒に活動してくださった部員の皆さん、活動を見守り支えてくださった高校の皆様に深く感謝申し上げます。ありがとうございました。



書道部保護者(生徒名)

## 飛翔

大森 明子 (優芽)

高校に入学してから新型コロナウイルスの影響により、ほとんどの行事が中止となり、発表の場も少なくなりました。



いました。その様な状況の中で、幸いにも書道パフォーマンスの大会に初めて参加することができました。

書道パフォーマンスは、紙面構成、ストーリー、振り付け、音響から成るものです。

二年時は、書道パフォーマンスグランプリで関東大会に出場することができました。

三年時は、書道パフォーマンス甲子園にチャレンジしましたが、惜しくも予選で終了となつてしまいました。

みんなで協力し、心を一つに書き上げたパフォーマンスを見て、とても感動するとともに、子供の成長を感じました。

その他にも展覧会に出品し、賞を頂くことができたのも指導してくださった先生や学校のお力添えのおかげです。貴重な経験を有難うございました。

## 囲碁将棋部保護者(生徒名) 臥薪嘗胆

高平 千晃 (優月)

今年度、前橋育英高校に入学し以前から希望していた将棋部へ入部しました。



昨年まではコロナの影響で行動制限があり、思うように活動できませんでしたが、将棋部に入部してからは先輩や先生と対局ができ、久しぶりに対面で将棋が指せることをとても嬉しく思いました。

入部して間もなく将棋大会があり、女子個人戦に出場しました。高校生として初めての大会で、まだまだ練習不足が不安でしたが、決勝戦ではギリギリで勝利し、全国大会への出場権を手にすることができました。そして、8月に東京で開催された全国総文祭へ出場しました。結果は予選敗退。全国大会のレベルを見せつけられました。その悔しさを今後の活動に活かして、さらに上位を目指して頑張りたいと思います。

お世話になった先輩方、先生方にはとても感謝しています。ありがとうございました。



ポランティア部保護者(生徒名) **決断、そして未来へ**

芦澤 慶之 (美和子)

コロナ禍において私たちは様々な制約のなか生活をしてきました。娘は中学の時に部活の引退もままならず修学旅行も行けませんでした。そんな中、保育士になるために育英高校に行くことを「決断」しました。私の中学時代を思い返したら、定期テストの結果で、だいたいこの高校かな？しか考えていませんでした。

誰もが経験をしたことがない今の社会において、親として後押しできることはその決断が「正解」だったと導くことです。お陰様で先生や友達にも恵まれ、楽しい高校生活が送れています。

ボランティア部で様々な体験ができ、体育祭や修学旅行



が楽しみです。あとは前橋育英高校に入学し、卒業して良かったと笑う娘の顔を願うばかりです。



女子テニス部保護者(生徒名)

**心をひとつに**

杉本 恭洋 (夏菜)

この3年間は、タイトル通り、心をひとつに皆で力を合わせ、夢を現実にした3年間に感じました。

コロナ禍により公式戦が中止になったり、開催されても無観客試合だったり、その度に子供達の士気が下がっているように感じることがありました。



この先の見えないトンネルの中でも、子供達は練習に打ち込み夢を諦めませんでした。その結果、全国選抜テニス大会出場、インターハイ出場を果たしました。私達保護者も今までに見たことのない景色を見ることができました。ご指導いただいた大館先生、武井先生には感謝の気持ちでいっぱいです。大変お世話になりました。



卓球部保護者(生徒名)

**感謝**

宮下 悦代 (百花)

卓球を全力で打ち込んで、取り組んだ高校生活だったと思います。

コロナ禍で、試合観戦ができ



インターハイ予選団体戦5位入賞 令和4年度県高体連ランキング 女子シングルス12位



きなかつたことは、残念ではありましたが、子供達は先輩の背中を追い、仲間と日々練習に励んでいました。各大会等で勝ち残れるようになると、益々、意欲的に練習していったと思います。

最後のインターハイ予選直前の国体選考会は、唯一観戦が許され、我が子の試合を目の当たりにし、精神面、技術面とも成長していた姿に感動しました。

そして迎えたインターハイ予選では、団体戦で入賞を果たし、歓喜のうちに引退できた事、嬉しく思います。

この多感な時期に、常に寄り添い、ご指導くださった先生方、共に汗を流した仲間たちの支えがあつてこそその卓球でした。皆様には、感謝の気持ちでいっぱいです。

この前橋育英高校で、有意義な時を過ごし、成長できた事、誇りに思います。

**吹奏楽部**

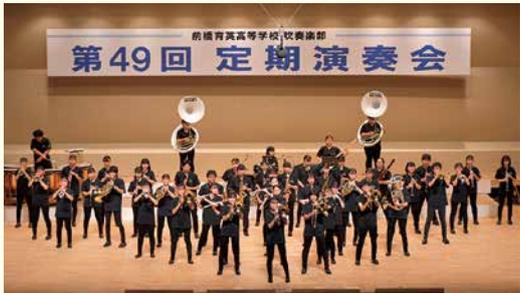
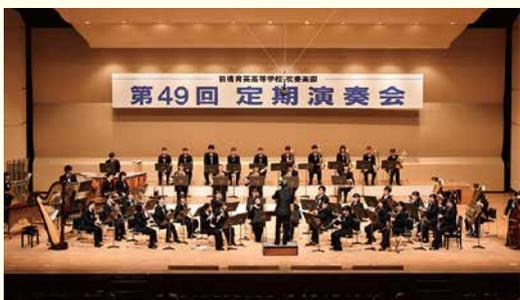
第49回定期演奏会を終えて

五感で楽しむ、おいしい音楽

吹奏楽部部長 中島 左喬

先日の定期演奏会へのご来場、誠にありがとうございました。前回、前々回共にホールへの来場は部員の保護者に限定されていたため、今年度の定期演奏会には私たち部員にとっても、強く思い出に残る演奏会となりました。 私たちの代は入部から卒部まで先の見えない不安に悩まされてきました。新型コロナウイルス感染症の拡大防止に伴った度重なる部活動停止や、予定通りには演奏会が開催できなかなどの多くの不安の中で最善を尽くす方法を常に探していました。このような状況で演奏会を開催することができたのは、多くの方々のご協力によるものです。誠にありがとうございました。

今回の演奏会で皆様にも少しでも勇気や愛情をお届けできていたら幸いです。私たちはこれからも五感で楽しめるおいしい音楽を皆様へお届けしていきます。応援よろしくお願ひします。



前橋育英

雄渾

同窓会  
だより

進化

同窓会長 新井 信雄  
(第3期生・昭和43年卒)



前橋育英高等学校同窓会員の皆様には日頃より格段のご配慮、ご支援をいただき心より感謝申し上げます。現在2万6580名の会員数になりました。

新型コロナウイルス感染症がまだ安心できない状況のなか、国際社会においてもウクライナが侵攻を受け、また異常気象により全国各地で記録的大雨や土砂崩れ、災害と大きな傷あとをのこしました。四国地区中心で行われた高校総体男子サッカー部が全国制覇。誠におめでとございます。文化クラブでも活躍がありました。新しい時代のなか「同窓会実行委員会」が立ち上がり、同窓会員の皆様、同窓会の新たな組織にご協力をお願いしたいと思います。

「同窓生の集い」の近況

同窓会副会長 板橋 和美  
(第13期生・昭和53年卒)

新型コロナウイルスが世の中を騒がせて三年目になります。ここ数年「同窓会総会・同窓生の集い」も開催ができませんでした。この間、同窓会として何も行うこともかわず、満足な情報発信等もできませんでした。

二万六千人を超える同窓生との「心の距離」が少しずつ遠くなっているのも強く感じています。現在、創立時から支えていただいている多くの先輩達から、近年卒業された大きなポテンシャルを感じる卒業生達まで、同窓会への想いや意見等を数多く聴かせていただいています。様々な想いや意見等を頂きながら、創立六十年目を迎えた前橋育英高校の歴史や世代間ギャップなどを強く感じ、ひとりひとりが様々な想いや意見等を持っていることに逆に嬉しい気持ちになりました。今は、二、三十歳代の豊かなイメージーション、

高いポテンシャルを秘めた同窓生を中心に、「全てをゼロベースで再構築する」「これからの同窓生のホームグラウンドを創る」想いで動き出しております。世の中では新型コロナウイルスも少しずつ対応が進んで来ましたが、来年の同窓会総会までに100%のモノを創れるわけではなく、「アントニオ・ガウディのサグラダファミリア」のように創りながら前進を続けていきますので、どうか温かい眼差しで見守りください。

親子二代同窓生



湯浅 冬樹  
(第23期生・昭和63年卒)

莉子  
(第52期生・平成29年卒)

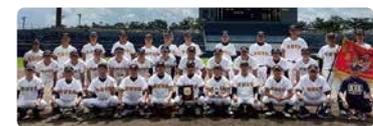
私の父は当時の野球部監督に誘いを受け、縁あって前橋育英高校体育科に入学しました。当時はまだ昭和満開の時代で大変厳しい指導のもと、仲間の支えと忍耐で何とか最後まで野球を続けることができたそうです。父は自分の生い立ちを振り返ると、あの時前橋育英野球部に入っ

私の近況報告

福井 和真  
(第37期生・平成14年卒)



大学を卒業して1年目から育英高校でお世話になり、勤続16年を迎えました。高校在学時からたくさんの先生に



お世話になり、現在は同僚として一緒に働けていることに大きな幸せを感じております。現在はゴルフ部の監督となり、有意義な時間を過ごしております。そんな中、昨年野球部OB会からマスターズの監督の依頼を受けました。若手OBの招集の適任者ということでしたので、お引き受けいたしました。そして監督初年度の今年、たくさんの方に来ていただき、群馬県高校野球OB野球大会兼マスターズ甲子園2022県予選で優勝することができました。

そんな父の影響もあり、兄が始めたきっかけで私も小学校3年から野球を始め、中学では硬式野球のクラブで活動していました。高校の進路を決める時に県内に女子野球部がないこともあり、前橋育英高校に入学しソフトボール部に所属しました。部活動では沢山のことを経験させていただき、3年間で得たものはとても大きいです。学校生活においては他の部活も県内・県外からレベルの高い仲間達が集まっており、毎日たくさんさんの刺激を受けながら素敵な学校生活を送ることができ、私にとつての高校3年間は宝物です。

した世代をはじめとする、たくさんのOBに参加していただきました。初戦からすべての試合に参加してくださったOBの方には本当に感謝しております。決勝戦は上毛新聞敷島球場で試合をすることができました。球場の雰囲気もそうですが、プロ野球さんからのアナウンスなども素晴らしい演出もあり、とても貴重な経験をさせていただきました。優勝後の校歌斉唱は感慨深いものがありました。残念ながら代表決定戦で敗れ、甲子園出場とはなりませんでしたが、来年以降も甲子園経験のない先輩方(私もですが)に甲子園の土を踏んでもらうことを目標に、OB一丸となり戦っていきたいと思います。また今後もたくさんのOBと一緒に野球ができることを楽しみにしております。来年こそは甲子園に行きましょう。

前橋育英高等学校

2023年度 同窓生の集い

(同窓会総会・講演会・懇親会)

日時 2023年7月8日(土)  
午後5時より

場所 ホテルラシーネ新前橋  
前橋市古市町1-35-1

卒業生ならどなたでもご参加OKです!!  
お気軽にご参加下さい!

詳細については後日同窓会HPまたはFacebookにてお知らせします。

★同窓会のホームページが出来ました★

http://www.mikuei-dousokai.com/

# 後援会だより

## 心の声を聴くために

後援会長 福島 英人



2月24日、ロシアが兄弟国とも言われた隣国ウクライナに侵攻を始め、約8か月が経過しましたが終わりの兆しは見えませんが、ウクライナの地は肥沃で、ヨーロッパの穀倉とも呼ばれる世界有数の穀物生産地です。そのため歴史を紐解けば第一次世界大戦以前から、近隣諸国の奪い合いの対象となった地域です。

さて、私たちが生活している日本は長い間対外的な紛争等がありません。また、個人間でも争いを好まない傾向にあります。それは過去の反省と、行動を起こす前に自らの心の声を聴くことのできる人々であるからだと思います。

では心の声はどこからやってくるのでしょうか。人は生

まれてから成長するにつれて生きていく上での約束事や規則がどんどん増えていきます。初めは親子間であり、次いで学校や友人間、そして社会に出れば会社や他人との間に出来上がっていきます。心の声はその過程で築き上げられるものなのです。正しいことを当たり前に行うことができる、他人の気持ちを考えてやる、他人の気持ちの声を思いやる、それができるとなると、真の心の声になっていくのです。ロシアの指導者は一体どんな声を聴いたのでしょうか。

後援会の目的は、建学の精神である『正直・純潔・無私・愛』を基盤として、社会に求められる卒業生を送り出し、併せて前橋育英高校の発展に寄与するところにあります。本校で学ぶ全ての生徒が、正しいことを当たり前に、他人の気持ちを考えてやる、後援会として側面から支援してまいります。皆様のご協力を心よりお願い申し上げます。

### 令和4年度 後援会定期総会

副会長 寺島憲一郎

今年度の定期総会は、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、書面開催となり無事に議決されたことを改めてご報告いたします。

新型コロナウイルス感染症を始め、世界情勢が時々刻々と変化しており、ロシアによるウクライナ侵攻の影響で原油高及び、物価高の状況が続いており、北朝鮮から弾道ミサイルが発射されるといった安全保障を脅かす事象も起こっております。そのような状況の中、酷暑だった今夏、前橋育英高校サッカー部がインターハイ優勝の嬉しいニュースが届きました。新型コロナウイルスの影響で、ここ数年自粛されていた各種大会が徐々に以前のように戻りつつある中で、このニュースは、本当に嬉しかったです。このような喜びを皆様と分かち合える日々が、1日も早く戻ってくることを祈っております。

### 令和4年度「優秀前橋育英生」



今年度の「優秀前橋育英生」は、次の生徒に贈られます。表彰式は12月21日終業式後に執り行われます。

男子サッカー部 代表 徳永涼(3-12)

全国高等学校総合体育大会四国総体2022 優勝 徳永涼(3-12)

U-18日本代表メンバー 出場 山田佳(1-13)

2022 SBSカップ国際ユースサッカー 出場 U-16日本代表メンバー 山田佳(1-13)

AFC U-17アジアカップ2023予選 出場 AFC U-17アジアカップ2023予選 山田佳(1-13)

囲碁将棋部 高平優月(1-5)

第46回全国高等学校総合文化祭 東京大会 出場 第46回全国高等学校総合文化祭 東京大会 高平優月(1-5)

### 学校後援会援助金贈呈式

男子サッカー部顧問 北村 仁



日頃より、前橋育英高校のクラブ活動にご支援、ご理解ご協力いただき誠にありがとうございます。クラブ顧問を代表いたしまして感謝申し上げます。

さて、令和4年7月20日(水)、本校会議室において学校後援会援助金・同窓会激励金贈呈式が行われ、同窓会新井信雄会長、学校後援会吉田哲也副会長より激励の挨拶を

いただき、援助金・激励金が各クラブ顧問代表者に贈呈されました。新型コロナウイルス感染拡大による様々な制限は、以前に比べ緩和されつつある中で、各クラブが感染予防対策を講じながら生徒達の夢や目標に向けて切磋琢磨し日々活動を行っております。今後も、刻々と変化する新型コロナウイルスに対応しながら、皆様の期待に応えられるよう、学校、顧問、生徒が一つになり日々努力をしていきたいと思っております。今後ともご支援、ご協力の程よろしくお願い申し上げます。

### コラム育英Ⅱ

#### コロナ禍での社会変化

新型コロナウイルスはようやく明ける兆しが見えたかと思うと、また新たな波がやってくることをくり返しています。コロナ禍でおきた社会変化はこれからも続き、これまで以上に変化が起きるとも予想されます。医療では、新薬の研究などは当然のこと、コロナ前には考えられなかったオンライン診療を促進する医療機関が出始めました。教育ではオンライン授業の促進、仕事社会ではテレワークの促進など密を避ける行動が当然のように行動化され、様々な分野で変化をもたらしています。新型コロナウイルスで大変な日々を送っているかと思いますが、地球が誕生してからの長い年月を考えると、今の大混乱も小さな出来事の一つではないかと考えられます。しかし、人類は今まで数えきれないほどの問題を一つ一つ乗り越えてきたと思えます。そうした力を強く持ち、次世代へ繋げなくてはなりません。

(O記)



